



## 「対話式進学塾 1対1 ネット」の 佐々木先生に「読売新聞社賞」を授与

日本語検定委員会は11月1日、今年6月に行われた平成24年度第1回日本語検定で、九州、中四国地方で開催している「対話式進学塾 1対1 ネット」の講師である佐々木謙司さんに対して、3級の読売新聞社賞を授与しました。

読売新聞社賞は1～7級の認定者の中から各級それぞれの成績優秀者を表彰する賞です。3級の最優秀賞を授与された佐々木さんは、「初めての受検にかかわらずよい成績が収められて光栄です。これを糧に次回はもっと頑張りたい」と、感想を述べました。



福岡、佐賀、長崎、岡山、香川など西日本で10県、108校舎を開校している個別教育舎の「対話式進学塾 1対1 ネット」は、小・中・高校生を対象とする進学塾です。生徒一人に先生一人がつきっきりで指導する対話形式を採用し、生徒一人ひとりに合わせた個別学習プログラムで細かくサポートすることで知られています。

今年第1回の日本語検定では、基礎学力をつけることを目的に生徒と講師、職員約3000人が日本語検定を団体受検しました。

日本語検定の担当者である教務部の庄野知佳さんは、日本語検定を団体受検する理由について「国語力は、『思考力』や『表現力』の源になる。国語力がつくことで、他の教科目にも良い影響になると考えている。日本語検定は、その全体の底上げに役立つ。私たち職員もきちんとした語彙、表現力を身につけるため受検を必須としている」と語り、「受検者が増えて子供が誰でも知っている日本語検定になってもらいたい」との励ましの言葉もいただきました。

また、管理部の永安希さんは「敬語や漢字、語彙などで日常生活の中で気付かないことに気付かされるなど新しい発見がある」と話していました。

